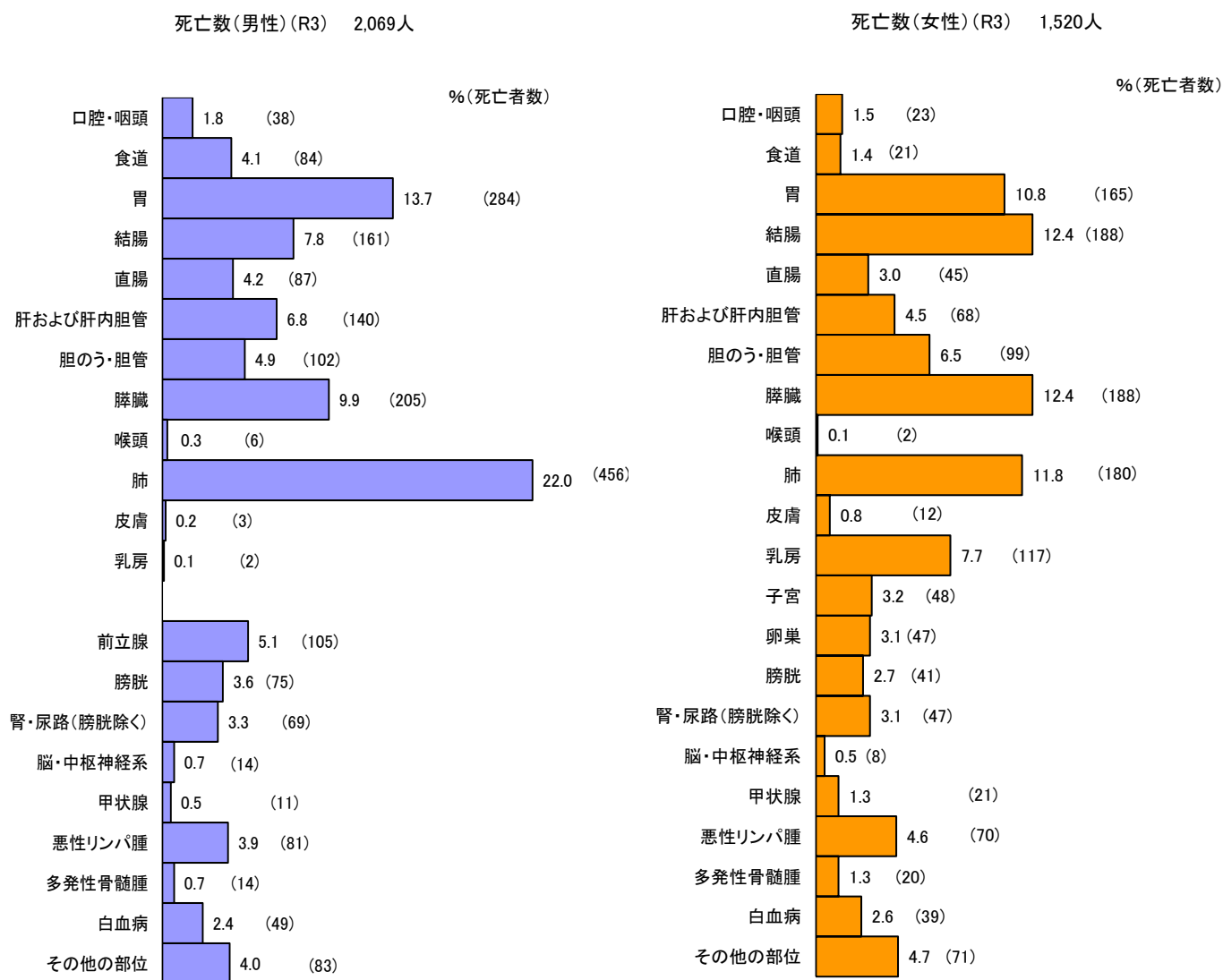


IV. 令和3年の死亡概要

1. 富山県のがんの死亡の概要

令和3年に富山県においてがんを原因として死亡した者は、男性2,069人、女性1,520人、合計3,589人であった。部位別の死亡数は、男性は肺に続き、胃、大腸（結腸・直腸）、膵臓、肝および肝内胆管が多く、女性は、大腸（結腸・直腸）、膵臓に続き、肺、胃、乳房の順に死亡数が多い状況であった（図10）。

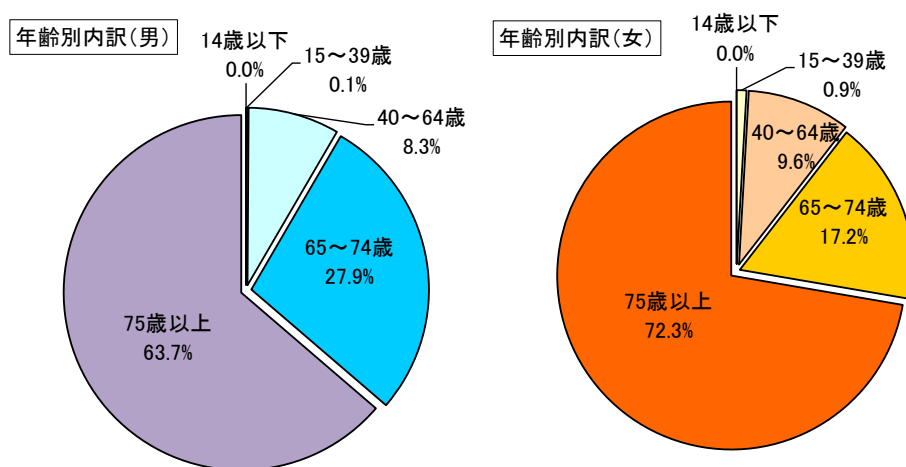
図10 部位内訳（R3年、表9から作成）



2. 年齢別に見たがんの死亡

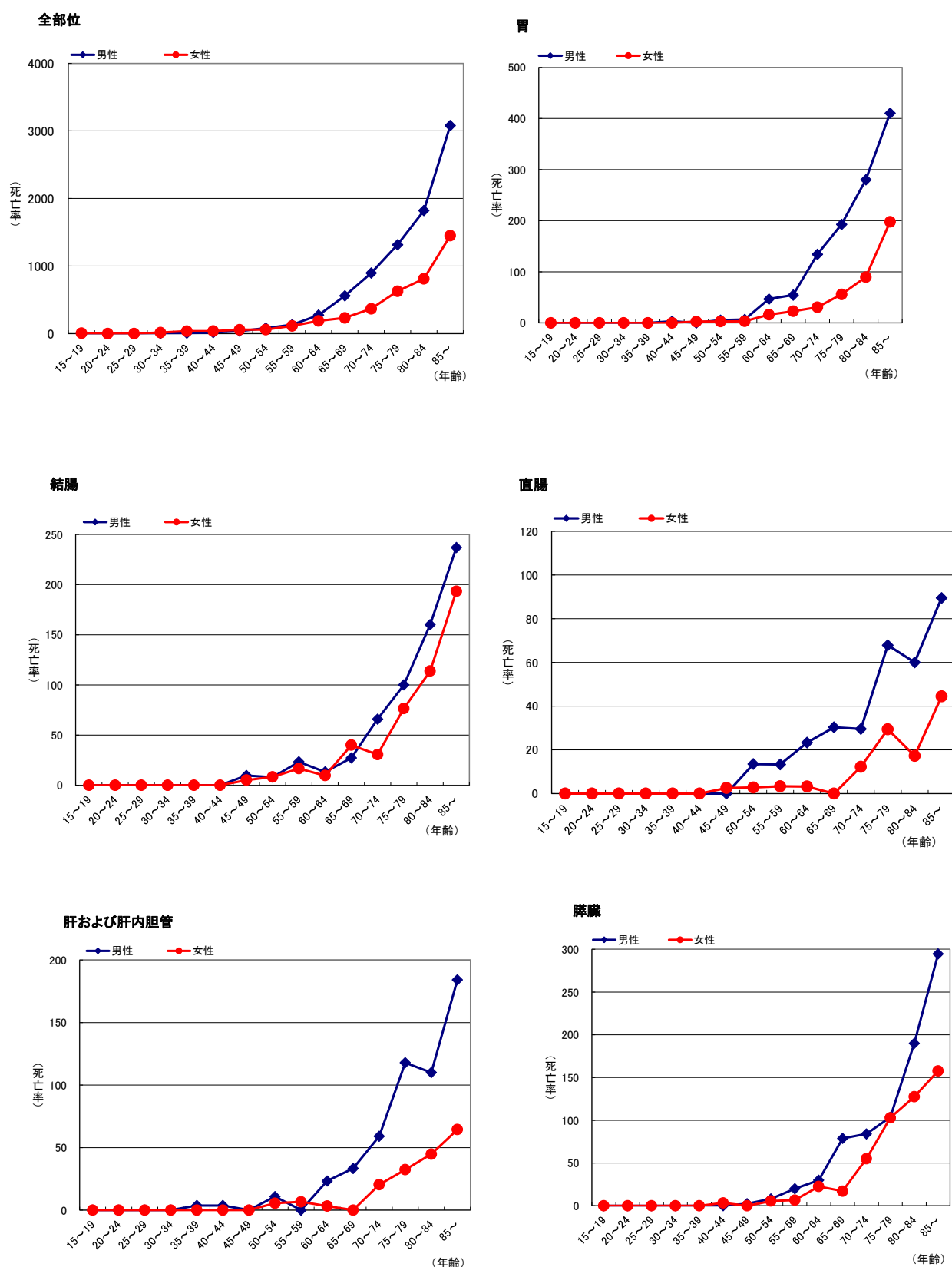
令和3年に富山県でがんで死亡した者のうち、男女とも65歳以上が約9割を占めた（図11）。部位別年齢階級別死亡率では、ほとんどの部位において、年齢が高くなると罹患率が高くなるため、年齢とともにがんによる死亡率も高くなっていた。また、各年齢階級別死亡率は、男性のほうが女性よりも高い傾向がみられた（図12）。

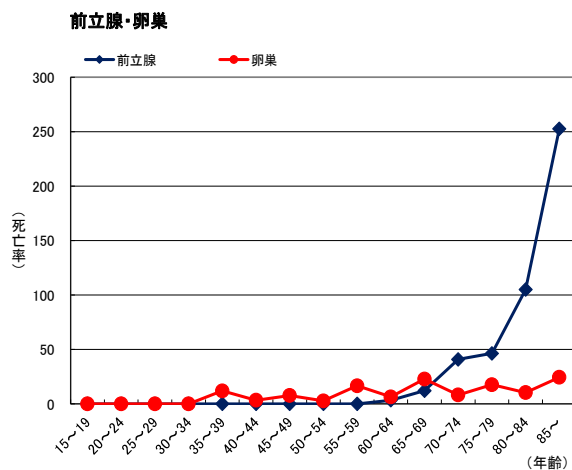
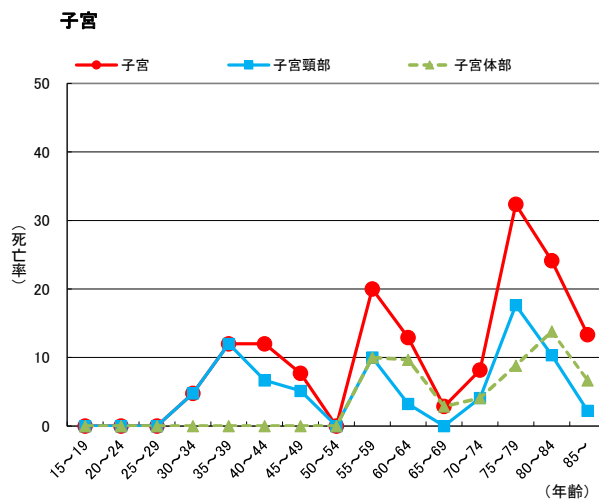
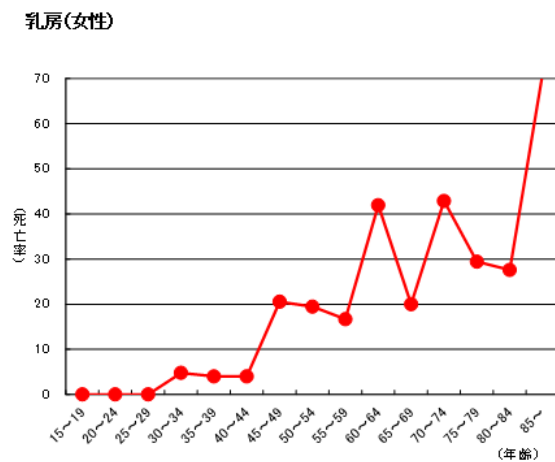
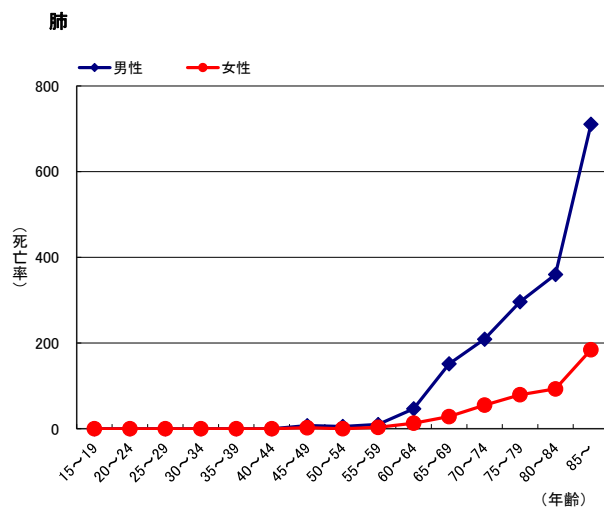
図11 年齢内訳（R3年、表10から作成）



	男性(人)	女性(人)
14歳以下	0	0
15-39歳	3	13
40-64歳	171	146
65-74歳	578	261
75歳以上	1,317	1,100
合計	2,069	1,520

図 12 部位別年齢階級別死亡率：人口 10 万対（R3 年、表 11 から作成）



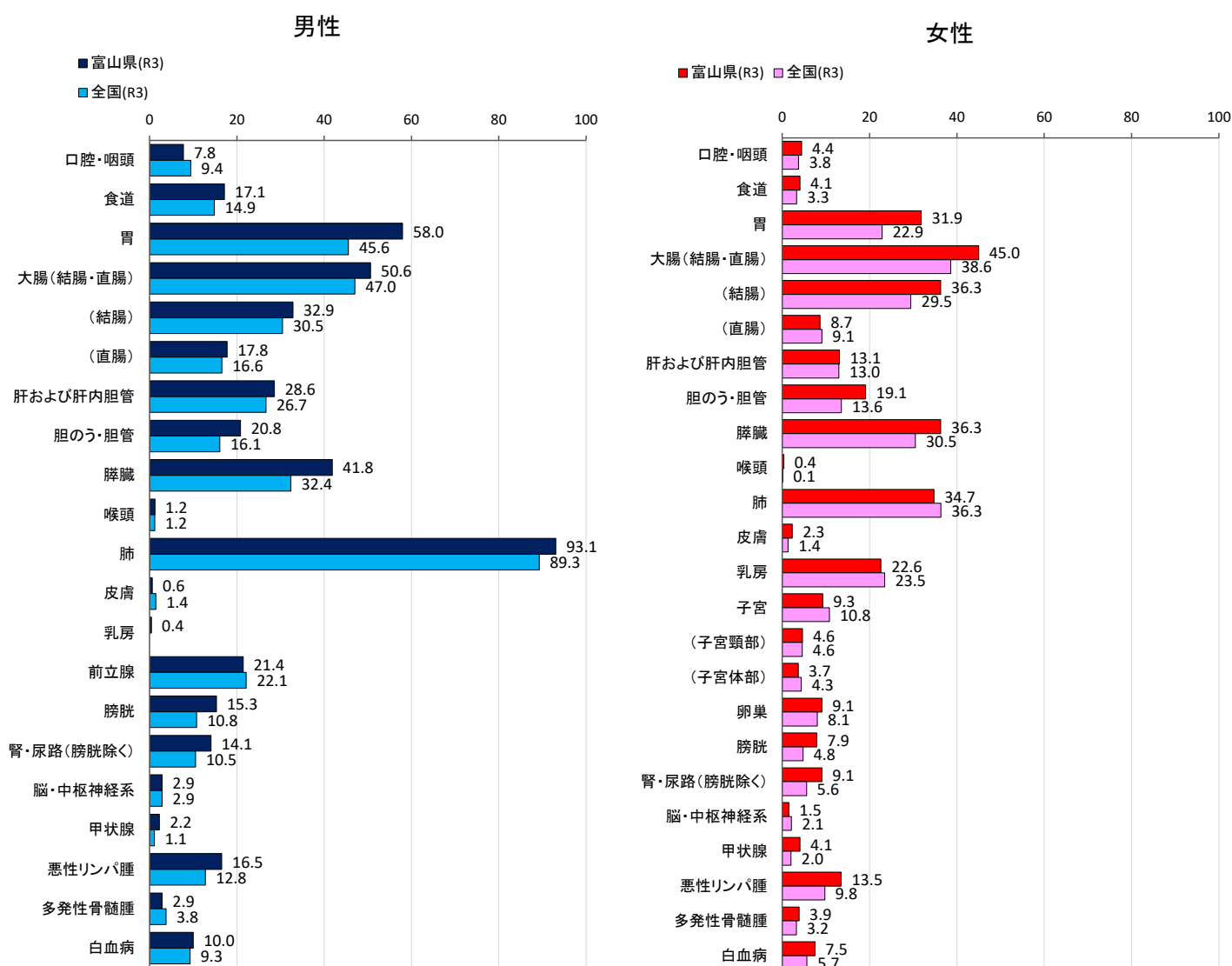


3. 富山県のがん死亡の特徴

令和3年の本県と全国の粗死亡率を比較すると、胃、大腸（結腸・直腸）、膵臓、悪性リンパ腫が男女ともに全国値よりも高い（図13）。

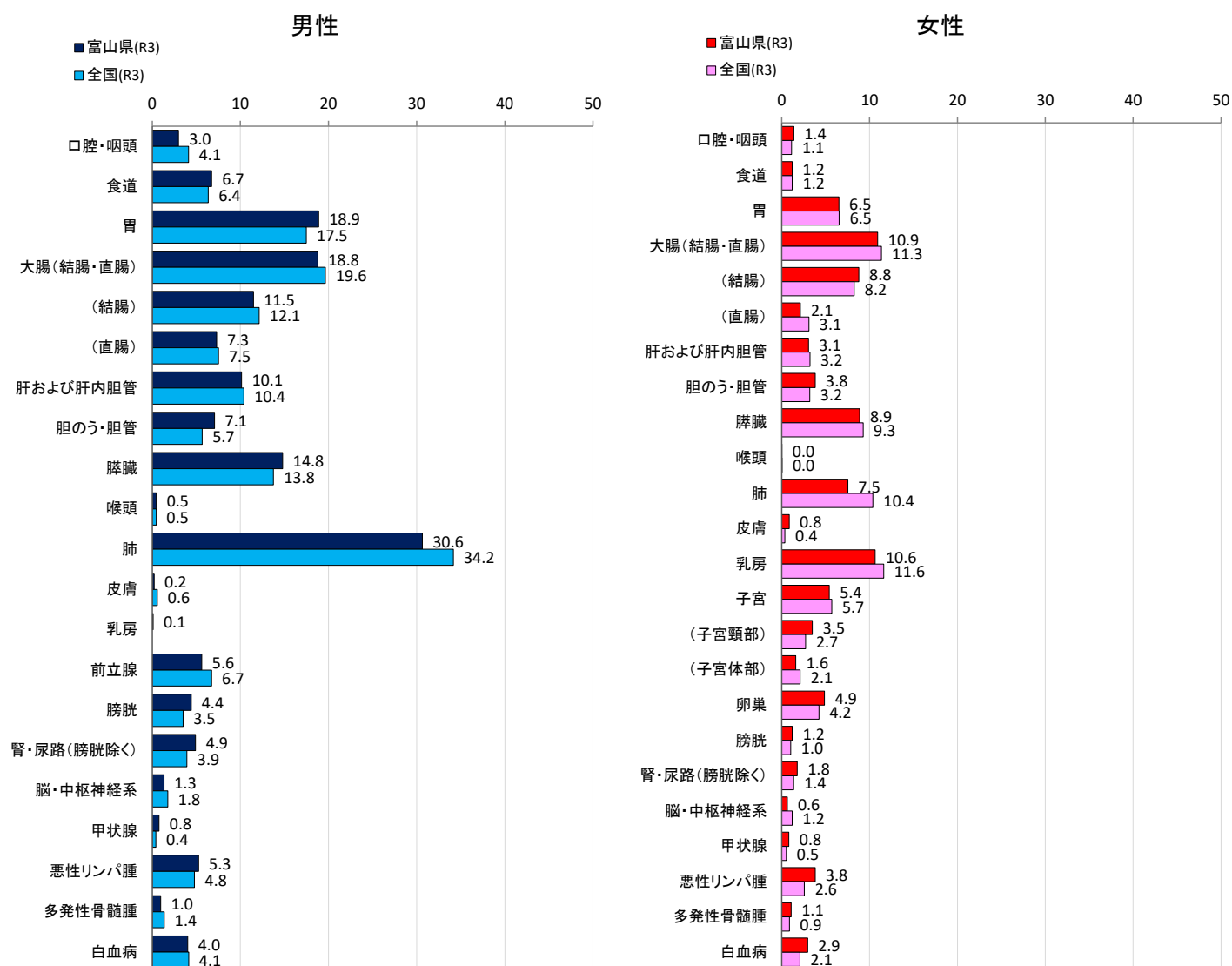
年齢調整死亡率を比較すると、男性の胃、膵臓、女性の卵巣、悪性リンパ腫が全国値よりも高い。一方、男性の大腸（結腸・直腸）、肺、女性の肺は全国値よりも低い（図14）。

図13 部位別粗死亡率：人口10万対（R3年、表9から作成）



全国値は国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」の「全国がん死亡データ（1958年～2024年）」より引用

図 14 部位別年齢調整死亡率：人口 10 万対（R3 年、表 9 から作成）



全国値は国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」の「全国がん死亡データ（1958 年～2024 年）」より引用